

夏山・鳥海山紀行

6月入会の轟と申します。出羽富士と称される鳥海山へ、高橋リーダーの元、女性6名、男性4名の計10名で、テント2泊の山行に行ってきました。7月の平ヶ岳は天候不良につき中止で、今回こそはと祈りながらの参加でしたが、3日間お天気に恵まれ素晴らしい山行となりました。



皆さん、ロングドライブの疲れも見せず、鳥海山湯の台登山口の麓の鳥海高原家族旅行村キャンプ場に到着すると、あっという間にテント三張り、食事場のタープを立て、楽しくて豪華なすき焼きパーティーとなりました。もちろん、明日の早立ちに備えて、早々に就寝しました。

翌朝は、予定の5時前には出発しましたが、登山口の駐車場はすでに渋滞。ようやく停めてスタートしました。30分ほどで滝の小屋に到着し、朝ごはん休憩。小屋番の山形支部

の方とご挨拶をかわし出発。そこでは、登りでも下りでも抜きつ抜かれつした地元の小学生と行き会いました。河原宿小屋跡周遊コースと登頂コースの二班に分かれて登るそうで、「来年は、登頂コースに行くんだ」と、男の子が話してくれました。雪溪のところを見た、お揃いの軽アイゼンは学校の備品でしょうか？渡渉や雪溪歩きまである本格的な登山を、小学生のうちに経験できるなんて、指導者の方々のご苦労は察するに余りありますが、素晴らしいともうらやましいとも思いました。

渡渉あり、雪溪ありの緩やかでも長い登山道を、ときど



き雲間から見える山頂方面と、百花繚乱のお花畑に癒され、(花は、大小、白・黄・紫・赤色ととりどりで名前も教えていただきましたが覚えきれません)小学生にも元気をもらって進み、外輪山の伏拝岳 2130m に到着してお昼にしました。ここからは、これまでの山容とは違う岩の山頂、新山・最高峰(2,236m)が見えました。



また、固有種の可憐な鳥海フスマ、濃い紫の大きな花が重たげな鳥海アザミも咲いていました。

外輪山の、三角点の手前で、膝と岩に不安のある3人にお留守番をしてもらい、7人で新山にアタックです。一度急に下り、避難小屋の横の雪渓を登り、岩稜を登って山頂へ一時間ほどで往復しました。

伏拝岳の下りに入る分岐で、予定時間が押していたため、先行炊事班6名と、膝痛&フォロー班4名の二班に分かれ、下山を開始しました。長い雪渓も軽アイゼンつけ、快適に進みます。厳しい岩の下りが続き、



2Lの水を飲み尽くしたところ、河原宿小屋跡の雪渓が切れたところに水場がありました。子供たちがにぎやかに水と遊んでいます。「飲める〜?」と聞くと「飲めま〜す!!!」と、水をくむ手がしびれるほど冷たい美味しい水が体に染みこみました。振り返ると、青空に、お花畑と雪渓を抱いた鳥海山が「お疲れさま」と見送ってくれたような気がしました。朝より水かさが増したような沢を超え、無事登山口に着きました。さあ!温泉に入って、食事の支度です。

この日のメニューは、スパゲッティとサラダとスープ。高橋リーダーの買い出しのセンスとご苦勞を称賛しながら準備を進めました。そろそろ暗くなってきましたが、4人はまだ戻りません。

暗くなってからの渡渉はさぞかし困難とだろうと心配していたところに、ヘッドランプをつけ戻ってきて、本当にほっとしました。滝の小屋番の山形支部の方に誘導を受け無事に下山とのこと。山の仲間のありがたさと素晴らしさを感じました。フォローのお二人(実は今回の最高齢)にも脱帽です。アクシデントをチームワークとリーダーシップで乗り越えた瞬間で、この後の宴会は大変楽しく盛り上がりました。

次の朝食は、ゆっくり8時としていましたが、皆5時には起きだし、テント干し、テント撤収の練習までこなしました。全員で出羽三山神社にお参りして、無事帰宅を約束して解散しました。私たちの車は、国宝の5重の塔と、湯殿山神社にお参りをして埼玉に向かいました。初めてのテント泊山行でしたが、盛りだくさんでとても楽しく、またいろいろ感じることの多かった山行となりました。皆さま本当にありがとうございました。これからもよろしく願いいたします。

記：轟 涼